



小城市立歴史資料館 * 中林梧竹記念館だより

小城の歴史講演会を開催しました

2月20日(土)に歴史資料館研修室で小城市歴史講演会「武士と刀」を開催しました。

講師にいまがわひろやす研師の今川泰靖さんを迎えて行いました。

講演は実際の刀の手入れを交えながら、参加者20人が熱心に聞き入るなかで行われました。



▲講演会の様子



令和3年度第1期

小城市歴史資料館常設展示テーマ展 「長崎街道と小城」を開催します

江戸時代人々が往来した長崎街道と小城城下、牛津宿に係る資料の展示を行います。

◆期間 5月1日(土)～30日(日)

◆場所 歴史資料館 常設展示室内

◆観覧料 無料



街道図▶

おぎの歴史探検隊

小城市内の近世石工の里を訪ねて〈その1〉

現在の小城市域の中でも3グループに分かれて活動していました。それぞれの地名を使い砥川石工・西川石工・右原石工と呼ばれています。今月号から3回に分け、これらの地域に残る代表的な石造物を紹介し、石工の足跡に触れていきます。

初回は、小城町池ノ上しもみぎわら地区の観音堂に安置されていた石造の聖観音像しょうくわんのんを紹介します。この石仏は、昨年確認の調査を行ったもので、高さ68cm・肩幅23cmを測ります。台座には銘文が刻まれ、その内容からちょうど300年前の享保5(1720)年正月、観音を信仰する右原村の有志により奉納されたことが分かりました。保存状態はよく、ほぼ完全な形で残されています。彫刻は精巧で、長い髪の毛を

頭頂で丸く結ってその前面に宝冠と阿弥陀如来が表現されています。当時流行した中国仏教の影響を受けた表現です。また、削り出した稜線や表面を磨いて滑らかにする丁寧な仕上げで、高い彫刻技術をもつ石工の手によるものだと考えられます。

右原石工は江戸中期以降、主に近場の山から安山岩や赤石の切り出しを中心に作業していることから、この観音像の作者は石仏の製作を得意とする西川の石工であった可能性が高いといえます。

(続)

小城市郷土史研究会／著



▲下右原観音堂本尊

❖開館時間 9時～17時

❖休館日 毎週月曜日・祝日

小城市ホームページから

梧竹・歴史資料館・文化財

検索

【問合せ・申込み】歴史資料館 文化課(桜城館2階)

担当 下川・永田 ☎71・1132